

愛知県ハンガリー友好協会会報

2017年夏号

設立 20 周年記念事業

《 ハンガリーフェスティバル in 愛知 》

“ピアノの調べとトランシルヴァニア地方の伝統文化”

早稲田みか（大阪大学教授）



2017年6月11日（日）、午後13:30-16:30、パラノビチ・ノルバート大使、ヴィハル・ユディット ハンガリー日本友好協会会長を迎えて、愛知県名古屋市の名古屋国際センターホールにおいて、恒例の「ハンガリーフェスティバル in 愛知」が開催されました。

愛知県ハンガリー友好協会理事の寺西むつみ愛知県議会議員の開会の辞に続き、駐日ハンガリー特命全権大使パラノビチ・ノルバートさん、ハンガリー日本友好協会会長ヴィハル・ユディットさんからご



パラノビチ大使



寺西むつみ氏

挨拶、および当協会設立20周年にたいする祝辞をいただきました。パラノビチ大使は学生時代から名古屋に長くお住まいだったことから、名古屋には特別な思い出があり、ご自分を名古屋人であると公言されました。日本語、日本文学、俳句の専門家、翻訳家、俳人でもあるヴィハル・ユディットさんは子どもの絵の交換や盆栽の寄贈など、当友好協会との交流にふれ、最後は俳人らしく、松尾芭蕉の俳句「春雨の木下につたふ清水かな」のハンガリー語訳であいさつを締めくくりました。また、来賓として、愛知県知事代理政策企画局国際課長近藤雅俊氏、名古屋国際センター総務課長鈴木寿雄氏にお越し頂きました。



司会:早稲田先生



ヴィハル・ユディット氏

第一部はピアニスト赤松林太郎さんの「ハンガリー風とリアルハンガリアン」と題したピアノ演奏。ベートーヴェンの「ロンド・ア・カプリッチョ（ハンガリー風奇想曲）」やシューベルトの「ハンガリー風のメロディー」、バルトークの「3つのチーク県の民謡」「ミクロコスモス」などが演奏されました。ベートーヴェンやシューベルト、リストの作品にみられるいわゆる「ハンガリー風メロディー」とバルトークが収集し作品に応用したハンガリー民謡に残る「伝統的なハンガリーメロディー」のちがいを、すばらしい演奏と巧みな話術でわかりやすく解説してくれました。最後はリストの「ハンガリー狂詩曲第6番」、聴衆のみなさんはすっかり魅了され、拍手が鳴り止みませんでした。



赤松林太郎さん



ここで、祝電（愛知県知事大村秀章、小牧市長）の披露が行われました。



谷崎聖子さん

第二部は「トランシルヴァニア地方の伝統衣装と刺繍」と題した講演会。現地に暮らし、伝統手芸研究家として活躍する谷崎聖子さんが、トランシルヴァニア地方の歴史と文化、衣装や刺繍について、数々の美しい画像とともに、お話してくれました。トランシルヴァニア地方は第一次世界

大戦まではハンガリー領だったこと、昔からハンガリー人、ルーマニア人、ドイツ人が暮らす多民族地域であったこと、ハンガリー人たちが暮らす地域でも、地域（カロタセグ地方、セーケイ地方、ヴァルツァシャーグ地方、ジメシュ地方）や村（セーク村、トロツコー村）によって、民族衣装や刺繍がさまざまに異なること、それらが互いに影響を与えあっていること、などが紹介されました。これに関連して、大塚奈美さん所有のトランシルヴァニア地方の民族衣装も展示されました。



酒井庸行氏

ここで当協会副会長酒井庸行参議院議員のあいさつがありました。



その後、愛知県犬山市の子どもたちの表彰式が行われました。当友好協会では毎年、ハンガリーの子どもたちと絵の交換を行っています。今年はソンバトヘイのレメニ



ク・シャーンドル小学校とヴァーツィ・ミハイ小学校の子どもたちの絵が会場に展示されました。ハンガリーの子どもたちの絵はソンバトヘイ友好協会の会長シュミット・チツラさんが4月に来日されたときに、日本の子どもたちへのプレゼント(イースターのチョコレートと小さな編んだウサギのマスコット)とともに持ってきてくれました。ヴィ

ハル・ユディット友好協会会長とパラノビチ大使から表彰状とプレゼントが贈られ、子どもたちは大感激していました。ちなみに、日本の子どもたちの絵の展覧会は5月にハンガリーで行われ、そのとき写真も会場に展示されました。



子どもたちの絵の下には、ハンガリー刺繍サークルの作品がところ狭しと並べられました。これらの刺繍作品は、7月28日(金)～8月2日(水)にギャラリーチカシンで開催されたマジョー刺繍をテーマとした第3回ハンガリー刺繍サークル作品展においても展示されました。



交流会ではサラミのオープンサンドイッチ、ハンガリーのお菓子、ワインなどがふるまわれました。入場者は300人にも達し、会場には立ち見の人もでるほどでした。パラノビチ大使やヴィハル・ユディット友好協会会長にも来ていただくことができ、設立20周年記念事業にふさわしい記念すべき会となりました。



ご参加いただいた皆様、ご協力、お手伝いいただいた皆様、ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。



ホールとロビーの交流会の様子



●ハンガリーフェスティバル 11日後！
30〜4・30、名古屋市中村区那古野の名古屋国際センター。洗足学園音楽大の赤松林太郎客員教授がハンガリーにゆかりのある曲をピアノ演奏。その後、伝統芸術研究家の谷崎聖子さんが「トランシルバニア地方の伝統衣装と刺繍(ししゅう)」をテーマに講演する。
県ハンガリー友好協会主催。入場料1500円、中学生以下は無料。(協協会事務局) 0568(76)4347

中日新聞

読売新聞

(第3種郵便物認可) 2017年(平成29年)6月8日(木曜日) 言宣

ハンガリー文化楽しんで 11日、名古屋でフェス

県ハンガリー友好協会(藤川政人会長)の設立20周年を記念した「ハンガリー・フェスティバル」が11日、名古屋市中村区の名古屋国際センターホールで開かれる。事務局長の志村美佐子さん(66)(小牧市)は、「親日的で、民族文化が豊かな中央ヨーロッパの国を知るいい機会。気軽に参加してもらえれば」とPRしている。

同協会は、リストやバルトークなどハンガリー音楽のコンサートを開催をきっかけに1997年に設立された。ハンガリーに工場のあるデンソーなど県内の自動車関連企業など法人5社と約100人の有志が会員。

毎年、民族色豊かなハンガリー刺しゅうの作品展や絵画展などを企画しているほか、料理教室や語学講座も開催している。

志村さんによると、ハンガリーはアジア系の民族マジャールがあいさつ。ピアニストの赤松林太郎さんがハンガリー音楽をソロ演奏するほか、少数民族の伝統衣装と刺しゅうの紹介、ハンガリーのワインを飲みながらの交流会が行われる。

会費は一般1500円(会員1000円)、中学生以下無料。問い合わせは志村さん(090・1090・3437)。

ハンガリー・フェスティバルのPRをする志村さん(小牧市で)

《 愛知県知事表敬訪問 》

2017年6月12日（月）、当協会理事 寺西むつみ愛知県議会議員のご尽力により、パラノビチ・ノルバート駐日ハンガリー特命全権大使、ヴィハル・ユディット ハンガ

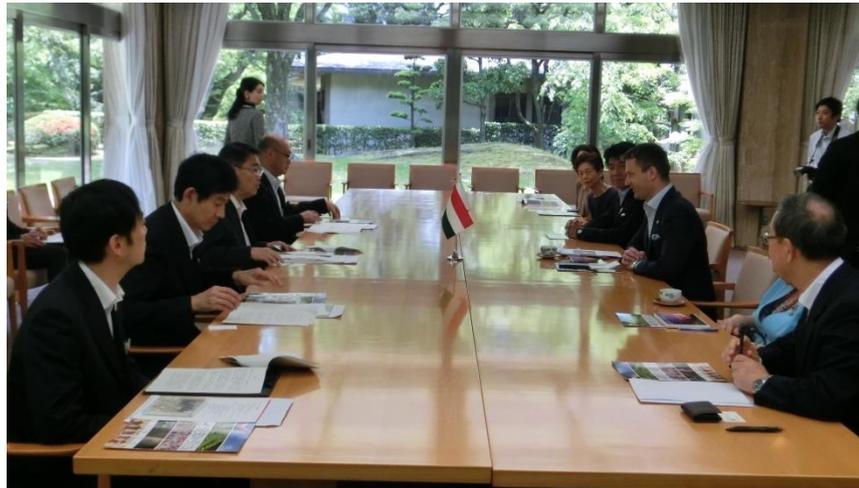


リー日本友好協会会長とともに、大村秀章愛知県知事を表敬訪問しました。面談は愛知県公館において午前11時10分から行われ、愛知県からは松井圭介政策企画局長、平田誠政策企画局国際監、近藤雅俊政策企画局国際課長が、当協会からは副会長の賀来芳弘、理事の早稲田みか、事務局長の志村美佐子が同席しました。

パラノビチ大使がハンガリーの概要、愛知県との関わり（デンソーやイビデンなど）などを、ご自身の名古屋との深い関係なども交えて説明され、

大村知事も興味深く耳を傾けていました。とりわけパラノビチ大使が日本における代表

をつとめていたハンガリーのサラミ製造会社ピックの製品のひとつ「毛むくじらの」マンガリツァ豚の話にはたいへん興味を示されました。パラノビチ大使は当友好協会の活発な活動とともに、現在抱えている諸問題にも言及され、当友好協会の存在をアピールできたのではないかと思います。



また同席された近藤雅俊政策企画局国際課長は、前日に国際センターで開催されたハンガリーフェスティバル in 愛知にも来賓としておいでいただきました。そのときにヴィハル・ユディット ハンガリー日本友好協会会長が手にしていたファイルが、愛知県



が10数年前にハンガリーを訪問したときに配布したファイルであることに気づかれたとのことで、当日、同じファイルを持参されました。これにはヴィハル・ユディットさんもびっくり、しばしファイルの話でもりあがり、互いの距離も縮まりました。

最後は、さわやかな青空のもと知事公館の緑ゆたかな庭で記念撮影を行い、なごやかなうちに面談は終了しました。

設立 20 周年記念事業

《 第 3 回 ハンガリー刺繍サークル作品展 》

「マチョー刺繍」



7月28日(金)～8月2日(水) 名古屋市栄のギャラリーチカシンで「第3回 ハンガリー刺繍サークル作品展」を開催いたしました。

今回のテーマは、2012年にユネスコの無形文化遺産に登録された「マチョー刺繍」です。



27日(木)10時からサークルのメンバー17人が集まり展示準備をいたしました。



それぞれに持ち寄った作品と、出席できない人から預かった作品をテーブルの上に、作品は山のようにあります。早稲田先生から、解説に沿って作品を展示してくださいと伺っていたので、まずは先生の解説パネル26枚を展示、それに合う作品を選び解説の下に並べました。

解説は、「ハンガリー」「ハンガリーの刺繍」(カロチャ・ベーケーシュ・マチョー・シャルケズ・カロタセグ・ヴァーシャルヘイ・クン・ウーリ)

「マチョー刺繍」「マチョー刺繍の歴史」(マチョーの女性の衣装・男性のシャツ・民族衣装・白一色のマチョー・ロゼッタ、鳥、ブーツのモチーフ)「新しいマチョー」(光沢のあるマチョーのバラ)「マチョー刺繍にまつわる伝説」「マチョー刺繍にまつわるエピソード」「図案の書き手、キシユ・ヤンコー・ボリ」などで、きれいな写真とともにとても詳しく紹介いただきました。



私たちは素敵なデザインできれいな色合いに感動して作品を制作しましたが、このように歴史的背景などを知ることによってクオリティの高い展示になったと思います。今回はこのような展示のみでなく、



解説書も作成し入場者全員に配布し、サークルのメンバーが来場者に詳しく説明をしながら私たちの制作の思いをお伝えしました。また、テーブルの上にはハンガリーについての本やハンガリー刺繍についてのハンガリーと日本の本なども並べ、自由に



に見ていただきました。

この事業は名古屋市国際交流活動助成事業に認定され、市民の国際理解を推進する普及啓発活動を実施することができたと思います。作品出展者は27人、作品数は約200点です。入場者数は6日間で約500人になりました。



最後に、今回の展示会にあたりご協力いただきましたマチョー刺繍の第一人者ゼレイネー・パプ・ベルナデットさん(ベティさん)に感謝申し上げます。

かわいいマチョーの花々



テーブルの上に刺繍の本



カロチャも展示しました





カロタセグ



ベーケーシュ

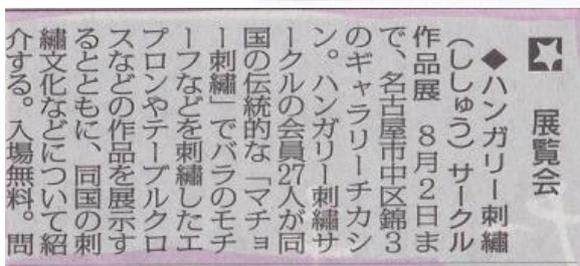
とても和やかで楽しい作品展になりました。
 搬出の日集まったメンバーで記念写真



中日新聞夕刊 2017.7.27



中日新聞 2017.8.1



毎日新聞 2017.7.28



問い合わせは、愛知県ハンガリー友好協会事務局の志村さん(090・1090・3437)。

《ハンガリー語入門講座》

「ハンガリー語入門講座」は毎月第2・4水曜日 10:00~12:00 名古屋国際センター 5F 第5会議室で行っています。指導者はフルディ・タマーシュさんです。

日本語がちょっと苦手なタマーシュさんは、ハンガリー語での説明が多く聞き取りが大変です。特に発音には厳しく、タマーシュさんの真似をしているのですが何度も直されます。

このクラスに6月~8月の短期間ですが、ハンガリーの医学部に留学予定の生徒さんが4人(内1人女性)入会され受講しました。彼らはブダペストの国立センメルweis大学、ハンガリー南部の国立セグド大学、東部の国立デブレツェン大学の医学部で学びます。卒業までに早くも6年、その間にハンガリー語がペラペラになることでしょう。



NIC あれこれ探検隊

国際交流活動はぜひNICで!

今回は、国際交流のためにぜひご活用いただきたいNICの施設についてご紹介します。

NICでは、ホール、会議室、研修室、和室、展示室の計14の施設の貸出しを行っており、国際交流行事のほか、企業説明会や仲間内の勉強会、サークル活動など、様々な用途にご利用いただけます。特に、国際交流に関するご利用には、一般料金より安くお使いいただけます。

愛知県ハンガリー友好協会は、会議室や研修室にて毎月、ハンガリー語とハンガリー刺繍の講座を実施。毎年6月には別棟ホールにてフェスティバルを開催しています。



料金が安いこと以上に、国際交流の拠点であるNICで活動を行うことに意義があると考えており、利用しています。アクセスもよく、集まりやすいです。

(事務局長 志村美佐子さん)

名古屋国際センターの隔月刊「ニック・ニュース8・9」にハンガリー語クラスの様子が載りました。

《アニメおやじのハンガリー紀行—天空の城ラピュタを訪ねて》Ⅱ

会員：寺崎 博光

【ワルシャワ経由でハンガリーへ】

2016年7月23日10時15分、ポーランド航空 LOT80 便はワルシャワに向けて成田空港を定刻に飛び立ちました。日本人の乗客は少なく、機内は明らかにポーランド人と思える団体客や個人客で一杯です。ポーランド航空は最近日本へ就航したようで、週に数便ですが運賃は他の航空会社に比べ驚くほど安かったです。しかし、サービスの面では他の航空会社と遜色はありませんでした。

ただ、食事のときにビールを頼んだのですが、出てきたポーランドのビールはあまり冷えてなくてしかも甘く、私の口には合いませんでした。しかし、缶ビールのラベルの絵にとっても興味を持ちました。客室乗務員に尋ねたところ、ポーランドの民族舞踊の「クラコヴィアク」という踊りの絵だそうです。男女がペアになって、集団で楽しく踊るとのこと。そういえばキューバには「サルサ」、ハンガリーには「チャールダーシュ」という踊りがあり、やはり男女がペアになって踊るようです。

飛行機はロシアのバイカル湖やモスクワの上空を飛んで同日の14時25分、無事ワルシャワのショパン空港に到着しました。11時間10分の空の旅でした。前回はドイツのルフトハンザ航空でしたので、経由地のフランクフルトまで13時間弱かかったように記憶しています。ワルシャワでの乗り換えが40分しかありません。あまり大きくない空港ですが EU の国は到着した国で入国審査を受けなければなりません。手荷物と孫の手を引いて慌てて走ったのですが、途中から息切れしてしまい6歳の孫に逆に手を引っ張ってもらいました。

イミグレーションで一番人数の少ない列に並んだのですが全く動きがありません。先頭のイスラム教徒らしいブルカを被った女性と男性のカップルに何か問題があるのか、一向に審査が終わりません。慌てて日本の団体客らしい人たちが多い一番長い列に並びなおしましたが、結局こちらのほうが早く終わりました。

乗り換えの搭乗口についたのが5分前、すでにみな搭乗したようで乗客は誰もいません。慌てて搭乗しようとしたところ係員がボードを指さして「40分遅れます」と英語で教えてくれました。英語の話せる娘と一緒に良かったです。英語もできないのに、いつもキューバにたった一人で行ってトラブルを何度も経験した私ですが、さすがに今回は慌てました。



【遊覧飛行の気分でブダペストへ】

7月23日15時45分、ポーランド航空 LOT537 便はワルシャワ空港を40分遅れて飛び立ちました。

ワルシャワからの飛行機は、80人乗りの双発のプロペラ機でした。プロペラ機はジェット機よりも低く飛ぶし、主翼が機体の上部についているので窓からポーランドの緑豊

かな大平原や、森や湖が手に取るようによく見えました。当日は晴れていたのになおさら素晴らしかったです。

ワルシャワからブダペストへは南へほぼ一直線です。途中スロバキアの上空を横切ることになります。

空から見るポーランドはため息が出るほど美しかったです。緑豊かな壮大な平地がどこまでも続き、手つかずの自然が残っており、途中に大小の町や村がいくつも点在していました。まさにポーランドはポラーニエ（平原の民）族の国だと思いました。

平原を過ぎて、なだらかな低い山々が続いたと思ったとたん、いきなり壁のように山脈が現れました。この山脈がスロバキアとの国境のようです。スロバキアは山国で平地が少なく、山道沿いに転々と人家が続いています。人家はカラフルで、小さなマッチ箱のように見えます。その人家がところどころで膨らんだように集まっていて、ここが村でした。驚いたことに人家は、峠近くまでありました。

山々の上空を飛んだら緑豊かな美しい平原がまた現れました。ハンガリーの平原です。空から見るドナウ川はハンガリーやスロバキアからの支流を集めて、本流が大きく直角

に南へ曲がってハンガリーのほぼ中央を縦断していました。有名なドナウベント（ドナウの曲がり角）です。ドナウベントの上空を過ぎたところで飛行機は着陸態勢に入り、ブダペスト空港に到着しました。1時間20分の夢のような空の旅でした。

ブダペストのリスト・フェレンツ国際空港には、孫の祖父母のイムレさんとヒールダさんが待っていてくれました。

孫のミハーイは祖父母に飛びつくと、堰を切

ったようにハンガリー語でしゃべり始めました。無理ありません、三歳で別れてから約三年ぶりの再会でしたから。祖父母も孫を抱きしめると、懐かしさのあまり泣き出してしまいました。いつもは私とは会話の少ない孫ですが、孫の違った一面を見るとともに、もらい泣きしながらちょっぴり嫉妬した日本のじいちゃんでした。

孫は生家へ向かう車の中でもしゃべりっぱなしです。日本での生活や友達のことを夢中になって話しているようです。私が日本語で話しかけても返事もしてくれませんでした。

(つづく)



<今後の事業予定>

今後の事業予定が下記のように決まりました。詳細は改めてご案内させていただきます。是非ご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

- ・「2017年度通常総会」：10月16日(月)18：30～ 名鉄グランドホテル
- ・「小牧市民まつり」参加：10月21日(土)22日(日) 小牧山会場
- ・「子どもアート万博2017」参加：12月9日(土)10日(日) ナディアパーク
主催：(公財)名古屋市文化振興事業団
- ・「ハンガリー料理でクリスマス」：12月17日(日) 名古屋国際センター

【編集後記】 大きな事業が2つでページ数が大変多くなりました。最後までお読み頂き有難うございます。又発行が遅れましたことお詫び申し上げます。